



# 学校だより

12月号  
横浜市立桜台小学校  
令和5年11月30日発行



HPはこちらから

## 多様性から学ぶこと

児童支援専任 大木 洋平

寒さが身に染みる日が増え、本格的な冬の訪れを感じられる頃になりました。

先日の授業参観では、多くの方にご来校をいただきありがとうございました。短い時間ではありましたが、お子さんの学校で頑張っている姿など学校での様子を直接ご覧いただくことができ、子ども達にとっても大きな励みになったと思います。

さて、横浜市では毎年12月を『横浜市いじめ防止啓発月間』と定め、全市的に子どもの健全育成に向けて取り組んでいます。この期間に合わせて12月4日(月)～8日(金)までの1週間、人権週間を設けて、講話や出前授業等を行い、子どもたち一人ひとりが人権について考える時間を作っています。子どもたちは日々、学校でたくさんの友達や職員と関わりながら、ポジティブなこともネガティブなことも含めてあらゆる経験をする中で考えたり、悩んだりしながら成長しています。

「いじめや差別はしてはいけない」ことを子ども達は言葉では分かっています。けれども、なかなかなくならないのはどうしてでしょう。

本校では人権教育を進めるにあたり、互いに認め合い、偏見や差別を許さない子ども達の育成をねらいとして取り組んでいます。偏見とは偏ったものの見方、差別とは偏見などによって差をつけ、一方を他よりも価値の低いものとして扱うことを指します。集団の中において子どもも大人も、考え方や性格など、自分と全く同じ人は誰一人としていません。それぞれがあらゆる考えをもち、様々な環境の中で生きています。しかし、心理学的に人は自分と異なるものに対してネガティブな思いをもつ傾向があるとされています。「考えが近い」「話が合う」といった人に対して、居心地のよさを感じ、「話が合わない」「価値観が違う」などと感じると、ネガティブな感情をもってしまいます。だからこそ、子どもたちには、自他の違いやよさを認め合い、自分の当たり前が他の人の当たり前ではないこともある、自分の気付かないところで困っている人もいるということなどに気付くことのできる心を育ててほしいと思います。自分と違う考え、違う性格、そこから学べることはたくさんあるのではないのでしょうか。多様性を重んじるこれからの社会、自分しかかけがえのない存在であるという自己肯定感、自分はみんなの役に立っているという自己有用感をしっかりともち、自分の力で進んでいくことができるようにしていきたいです。

「個性や違いを認め合うことについて」「相手のよさに目を向けることについて」ご家庭でもぜひお子さん達と話す時間をもっていただけたらと思います。